

The background is a stylized, isometric illustration of a city. It features a river, a railway line with a train, a highway with cars, and various buildings including a tall skyscraper, a school, a park with a baseball field, and industrial structures. Several circular callout bubbles are overlaid on the city scene, each depicting a different aspect of public transportation: a bus stop with people waiting, a person walking with a child, a person using a smartphone with a '20% discount' sign, a person with a bicycle, a person with a stroller, a person with a wheelchair, and a person with a car. The main title is centered over the city scene.

別府地域のバスを一緒に考える会

令和7年10月5日(日)

午前10時～12時

摂津市地域公共交通協議会

本日のプログラム

時間	次第	内容	資料/ページ	
10:00～10:05	1. 開会あいさつ【5分】	・公共交通の現状 ・会の目的、進め方の説明	資料1	P.2～5
10:05～10:20	2. アイスブレイク【15分】	・普段訪れる場所の共有	資料1	P.6
10:20～10:30	3. 情報提供①【10分】	・市内循環バスについて ・バスの突然の廃止 など	資料2	P.2～10
10:30～10:50	4. ワーク①「バスで行ける 場所・行けない場所」 【20分】	・グループワーク	資料1	P.7～8
10:50～11:00	～～～休憩【10分】～～～		—	—
11:00～11:10	5. 情報提供②【10分】	・運転手不足の状況 ・バス事業者の経営状況 など	資料2	P.11～17
11:10～11:35	6. ワーク②「利用したいと 思えるバスにするため に」【25分】	・個人ワーク、グループワーク	資料1	P.9～12
11:35～11:55	7. 全体発表【20分】	・各グループの代表が発表	資料1	P.13
11:55～12:00	8. 閉会あいさつ【5分】	—	資料2	P.18～20

本日の目標

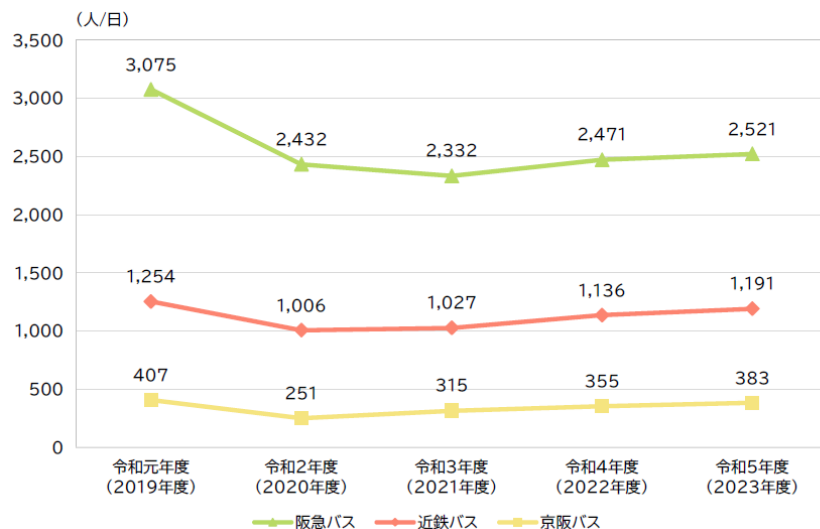
1. 地域のみなさんが「普段訪れる場所」の把握・共有
2. 将来、公共交通で暮らすときに、「バスで行ける場所」「バスで行けない場所」の把握
3. 「利用したいと思えるバスにするためのルートや取組み」を考える

摂津市の公共交通を取り巻く現状

- 全国と同じように、摂津市でも路線バスをはじめとする公共交通を利用する人は減ってきている。
- また、働き方のルールが変わり、現状のサービスを続けるためには、運転手が今まで以上に必要になるなど、**運転手不足は深刻な問題になっている。**

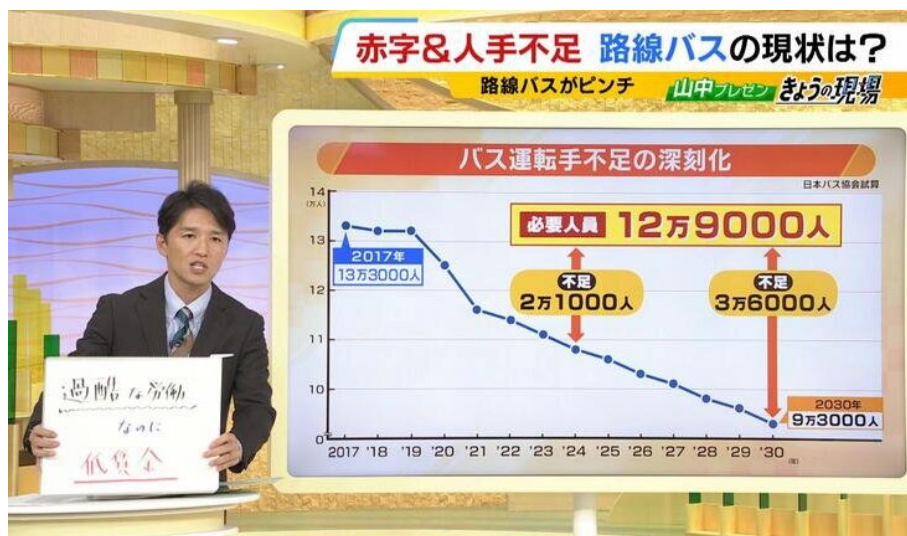
交通事業者の努力だけで、公共交通を維持していくことは難しくなっている

▼摂津市の路線バス利用者数の推移



出典: 摂津市地域公共交通計画

▼「バス運転手不足の深刻化」に言及するニュース番組



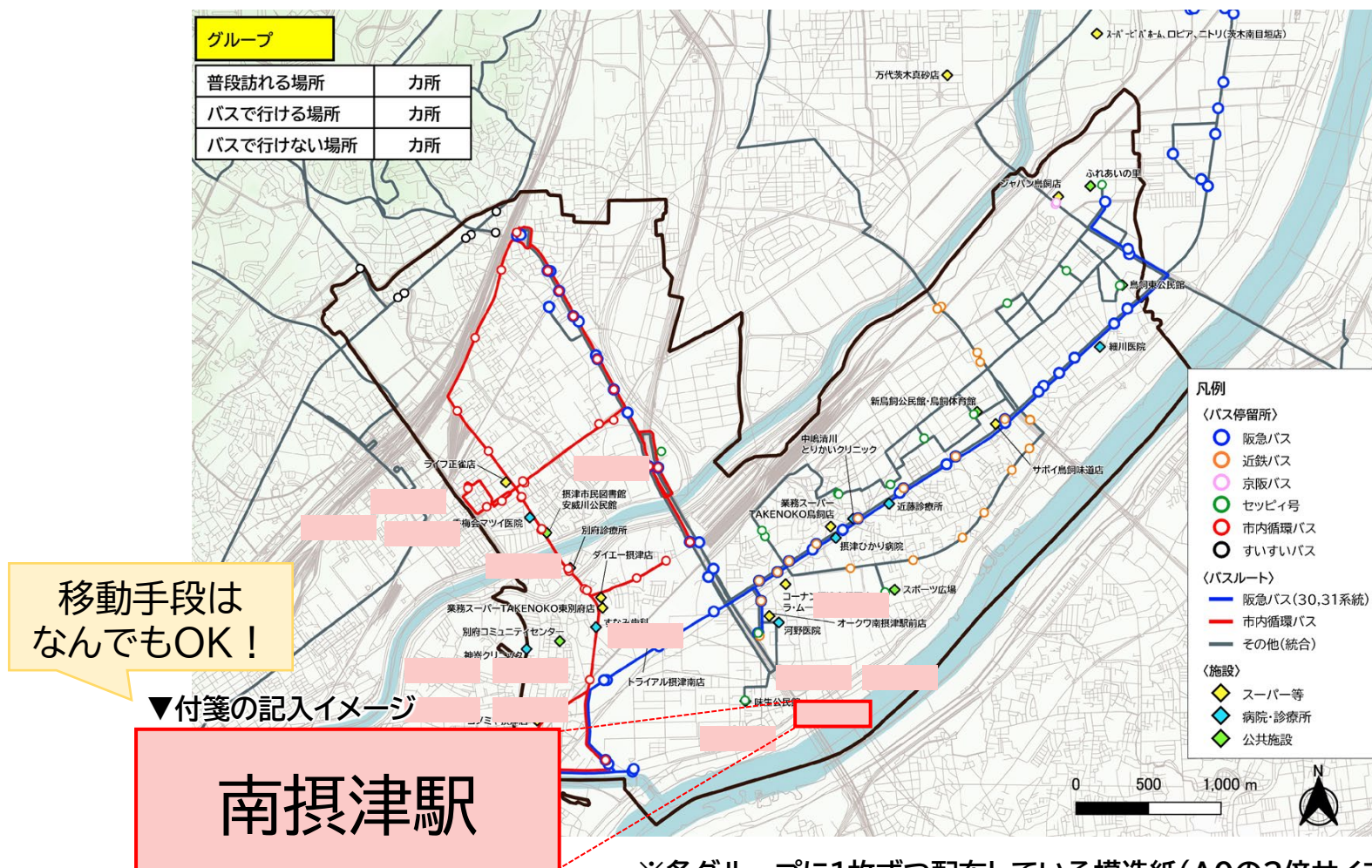
出典: 関西テレビ「newsランナー」2023年9月12日放送



実施時期	令和 7 年 (2025 年)	令和 8 年 (2026 年)	令和 9 年 (2027 年)	令和10年 (2028 年)	令和11年 (2029 年)	次期計画
	市民ニーズ把握 運行形態見直し検討	運用面の検証 関係者調整	実証運行	本格運行		

普段訪れる場所の共有【15分】

- 普段訪れる場所を付箋(75mm×25mm)に書き出してください。【5分】
- 付箋を地図のおおよその位置に貼りながら、グループで共有してください。【10分】



【ワーク①の目標】 ※将来、現在のバス路線網が維持できていると仮定

・将来、公共交通で暮らすときに、「バスで行ける場所」「バスで行けない場所」の把握

⇒将来の暮らしにおいて、バスがどう関わるのかを感じてもらう

【ワーク①の流れ】

Step1: 普段訪れる場所を地図上に示す(赤丸をつけよう)

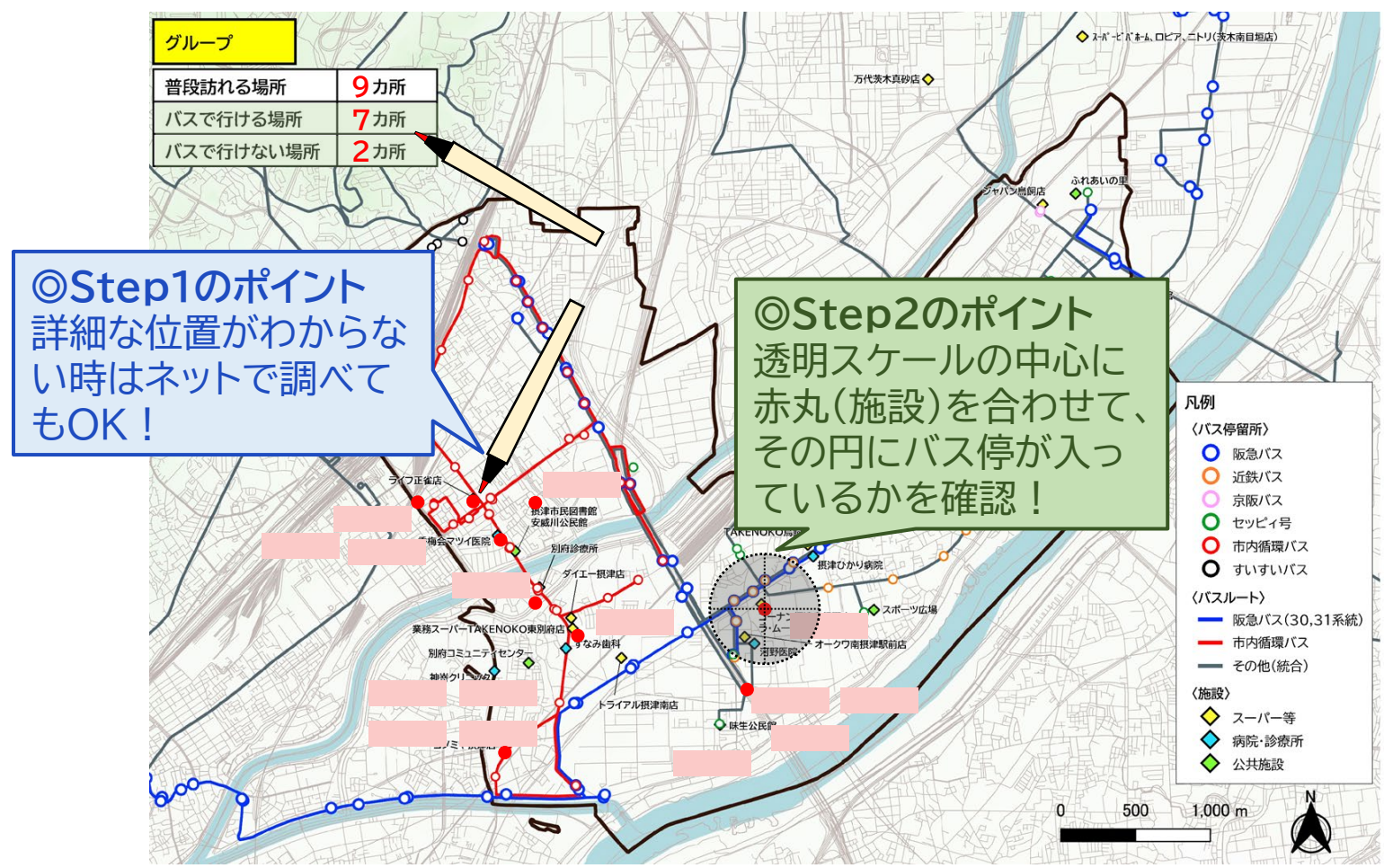


Step2: 透明スケールを使って、将来を想定した「バスで行ける・行けない場所」を確認

グループ:20分

Step1: 普段訪れる場所を地図上に示す(赤丸をつけよう)

Step2: 透明スケールを使って、将来を想定した「バスで行ける・行けない場所」を確認



※各グループに1枚ずつ配布している模造紙(A0の2倍サイズ)

【ワーク②の目標】

- ・利用したいと思えるバスにするためのルートや取組みを考える
⇒バスをより良くするためには、多様な視点から考える必要があることが大切だと感じてもらう

【ワーク②の流れ】

Step1:長さの決まった紐を使って、利用したいと思える
ルートを考える

個人:6分

Step2:利用したいと思えるバスにするルートを意見交換

グループ:10分

Step3:利用したいと思えるバスにする取組みを意見交換

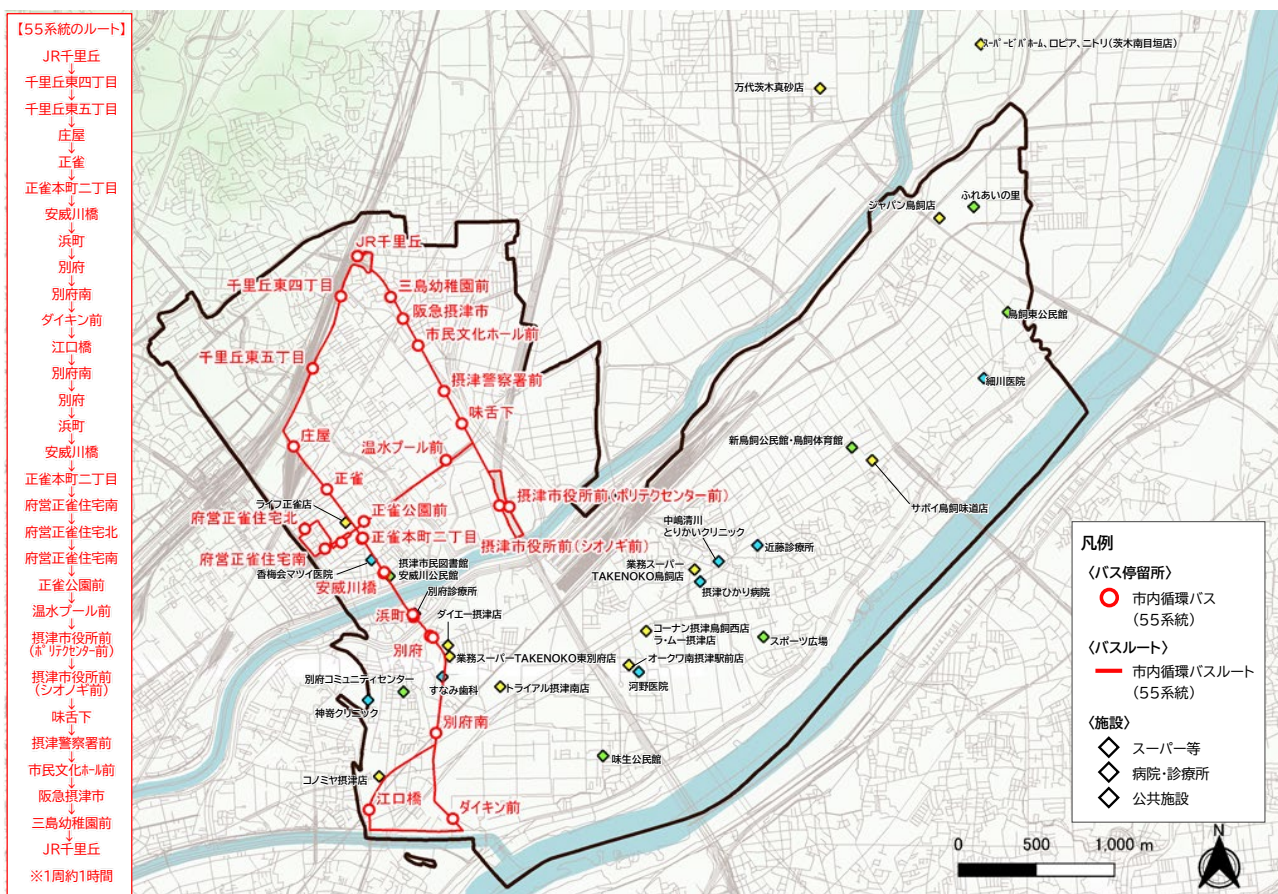
グループ:5分

6. ワーク②「利用したいと思えるバスにするために」

Step1:長さの決まった紐を使って、利用したいと思えるルートを考える

個人:6分

- 現状の市内循環バス路線(55系統)を、利用したいと思えるルートにするためにどういうルートがよいか、紐を使って考えてみてください。



【前提条件】

- ・現状は1時間で1便運行されています
- ・紐の長さは使えるリソース(1時間で走れる距離)をあらわしています

【考えてほしいこと】

- ① どういうルートにしますか
- ② そのルートは、持っている紐の長さで何便運行できそうですか

※A3用紙(全員に配付)

Step2:利用したいと思えるバスにするルートを意見交換

グループ:10分

- 各自が考えたルート案の中から、グループで1つもっとも良いと思うルートを決めてください。(最後に全体発表してもらう予定です)

〇〇駅を通ると時間がかかりすぎるから、手前のスーパーまでにしてみるのはいかがでしょうか

あの地域はけっこう住んでいる人も多いから、ルートを通し
してあげてもいいかもしれないね

便数を増やすと、バスで行くことができる場所が少なくなるね

あの地域であれば、〇〇公園の前を通らせると、みんなも行きやすいと思うな



Step3:利用したいと思えるバスにする取組みを意見交換

グループ:5分

- 自由な発想で、利用したいと思えるバスにする取組みについて、グループ内で意見交換をしてください。

どのバスに乗れば、行きたいところに行けるかわからないから、わかりやすい案内があればいいかも

この施設は訪れる人が多いから、ここに待てる環境を整備すれば、バスは使われるかも

〇〇駅との乗換がスムーズだと使いやすいかも

〇〇病院に行く人は多いから、〇〇病院の前も通るようにした方がいいかもね



全体発表の流れ

- 1グループ2分程度で全グループ(それぞれグループの代表者)が発表してください。
- 他のグループの発表後に、質疑応答の時間もあります。
※時間の押し具合によっては省略する可能性もありますので、ご了承ください。

【発表のポイント】

1. この会に参加して、気づいたこと

2. ワーク②でグループ内で決めたルート(どういう意見が出たかも一緒に)

3. 今後、自分や地域として意識したいこと